

令和2年度 自己評価表(年度当初)

中長期目標 (学校ビジョン)	1. 主体的学習者の育成 2. 21世紀をリードする人材の育成
-------------------	------------------------------------

○評価基準 A 80%以上(概ね達成) B 60~80%(一定の成果がある) C 40~60%(さらなる努力が必要) D 40%以下(現状が改善されていない)

今年度の重点目標	1 次代の担い手として、次代を生き抜く学力の伸長 2 定時制教育のさらなる充実 3 業務改善の取り組み
----------	---

【全日制課程】

評価項目	具体的項目	年度当初			最終評価結果()月		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
学力向上	基礎学力の定着(知識・技能の習得)	・家庭学習時間1日3時間の目標は、全学年の平均で達成できているが、毎年1、2年次生が到達していない。時間割編成上、個々のレベルに応じた授業には限界があるが、学力層に応じた課題が用意され与えられている。 ・リメディアルはできていない。1年次において到達度テスト(スタディサプリ)が活用され始めている。	・家庭学習時間は1日3時間は確保され、学力に応じた課題と授業により、効果的な学力の定着が図られている。 ・生徒は個々のつまづきに対応した学び直しを家庭で行い、基礎学力の定着を進めている。	・家庭学習調査は年5回実施を継続する。 ・単位制の特性を活かした教育課程の研究を進め、学力層に応じた授業を展開できるようにする。 ・新入生の3科の学力を春休み課題テストと到達度テスト(スタディサプリ)を使用して調査し、生徒個々に放課後課外等を実施し学力を保障する。その成果を校外模試等で検証する。 ・生徒に「ロードマップ」を活用させることで自発的学習を促し、基礎学力の定着を進める。			
	思考力・判断力・表現力の伸長	・各教科において入試改革による思考力、判断力、表現力をみる問題の研究をすすめているが、授業評価アンケートの「授業で教える合いや課題解決の場面がかなりある」は64.7%であった。 ・各教科において来年度の入試改革に対応した評価問題の研究が行われているが、教科を超えた話し合いや、成果物を共有する場は設けられていない。	・授業を通じて生徒は基礎学力が定着し、思考力、判断力、表現力が高まっており、今年度の授業評価の「授業内での課題解決の場面がかなりある」の数値が80%となっている。 ・進路指導テストや定期考査において、知識・理解の評価だけでなく、思考力・判断力・表現力を評価する問作が行われている。	・全ての授業を基本的に公開とし、研究授業の際は他教科の教職員も積極的な参観を行う。 ・研究授業の指導案に、思考力・判断力・表現力を高める工夫を分かりやすく標記するよう促す。 ・先進校視察の後は授業実践報告書を作成し職員研修で共有する。 ・授業アンケートは年2回の実施を継続するとともに、アンケート内容の再検討を行う。 ・各教科で思考力、判断力、表現力をみる評価問題と評価ルーブリックの研究を進め、公開を目指す。			
探究学習	探究活動の推進	・昨年度の2年次の探究学習は予定通り実施できたが、アンケートでは「探究活動に満足」「やや満足」の合計が51%にとどまり、生徒自身が充実していたと実感できる活動にはなっていない。 ・探究成果発表会は、倉吉未来中心大ホールを使って大々的に実施できたが、来客が少なほほ校内だけの発表に止まった。 ・世界的な新型コロナウイルス流行を受けて、韓国・安養高校、シンガポール・セントジョセフ高校との新たな交流の在り方が模索されている ・図書館の貸出冊数は一昨年度比で約20%増加したが、今年度から朝読書が廃止され、今後読書離れが予想されている。	・各種行事がスケジュール通り行なわれるだけでなく、アンケートの満足群が75%以上になっている。 ・探究成果発表会には、保護者や中学生など200人以上の外部参観者がある。 ・ビデオ会議やeメール等、探究活動を通じて、海外との交流が盛んに行なわれている。 ・生徒が主体的に読書を行い、図書館の貸出冊数が前年比で20%増加している。	・先進校の事例研究を進め、ゼミ担当教職員に適切な情報提供を行う。また生徒の意見を適時集約しながら、結果を活動にフィードバックしていく。 ・1月30日土曜開催とし、発表形式も全生徒によるポスター発表に変え、外部の方々に来校しやすい日程、内容に変更する。 ・昨年のノウハウを活かし、必要な機材を購入してネット会議の環境設定を行なう。 ・ビブリオバトルの開催や、図書を紹介を通じて読書に対する関心を高め、併せて適切な新刊購入を行ない図書館の環境整備を進める。			
キャリア教育	キャリア教育の充実	・生徒のキャリアを明確にする過程を通して、生徒の将来の選択肢や可能性を広げることが十分にできておらず、限られた既知の知識や認識の中で生徒の将来像が決定されてしまっている場合がみられる。 ・昨年度末までに3年間を見通した学習に関するロードマップを作成したが、全教科による運用が行われておらず、リメディアルが必要な生徒や発展的な学習が必要な生徒への手立てが効果的に行われていない。	・生徒が様々な選択肢の中から自分のキャリアに適した将来像を決定することができる。 ・生徒が3年間を見通した計画的かつ効果的な学習活動を行うことで、自己の進路実現に向けた学力を身につけている。 ・大学合格者数が学校指標(東京大学合格者を含む超難関大学合格者5名以上、難関大学合格者20名以上、中堅大学合格者50名以上)に到達している。	・進路学習を見直し、進路学習の時間だけに留まらない3年間に亘ったキャリア形成活動となるように計画する。 ・3年間を見通した学習に関するロードマップを全教科で効果的に運用する。 ・高大接続改革についての研究を行う。 ・大学入学共通テストについての研究を行う。			
学校行事の充実		・「文武両道」を実現し、部活動や学校行事へ積極的に取り組み成果を上げる一方で、部活動や学校行事に対して生徒・教職員の様々な意見がある。伝統や慣習の良さを踏まえつつも、生徒の要望や働き方改革なども考慮し、より効果的な学校行事や部活動の運営が求められている。 ・学園祭は生徒の主体的な活動に基づき、創造力を発揮して感動を生み出す、伝統的な行事となっている。	・学校はガイドラインに沿った部活動の実践を行い、部活動が生徒にとって喜びや生きがいの場となり、生徒アンケートの結果で肯定的回答が90%を超えている。 ・働き方改革を踏まえ、部活動と行事などのバランスが取れている。 ・生徒の自主性や創造力がさらに発揮され、学園祭がさらに魅力的な行事となっている	・部活動時間を見直し、改めて生徒の主体性を促す。教職員は生徒が自発的に行動する場を提供し、充実した活動となるよう努める。生徒が熱心に部活動に取り組める環境づくりをするとともに勉強とのバランスがとれるよう工夫する。 ・学校行事や部活動の精選など伝統を大切にしながらも、よりよいあり方を検討する。 ・学園祭の重要性に対する認識を共有し、生徒の自主性を尊重しながら教職員が適切な支援を行なっていく。			
人権教育の充実		・生徒は概ね安心安全な学校生活を送っている。 ・人権教育LHR委員は、教職員と話し合いを持ちながらLHRの運営をしているが、他の生徒の取り組みが受け身になりがちである。	・生徒一人一人が大切にされ、自分らしく、安心安全な学校生活を送っている。 ・教職員の指導のもと、人権教育LHR委員が中心となり、人権教育LHRの企画・立案・運営を行うことで、活発な意見交換が行われ、人権意識が高まっている。	・授業、学校行事、部活動など全教科全領域に亘り人権教育に取り組み意識を持つ。 ・すべての生徒が自分のこととして人権について考えられるよう、探究型の人権教育LHRの企画から教職員が深く関わる。			
学校の教育力の伸長	生徒の活動、学校の取組の情報発信	・学校・育友会ホームページや倉東より等広報誌によって本校の教育活動についてリアルタイムな情報発信に努めたが、ホームページにおいて一部、部活動情報等の更新がやや不十分であった。 ・育友会には、「大人の一言」や「強歩大会での豚汁支援」など様々な取り組みを通して生徒の教育活動をサポートしていただいている。また、同窓会においても、基金を通して経済的な面で生徒の教育活動を支援していただいている。	・本校の教育活動に係るリアルタイムな情報発信に努め、地域・保護者・中学生等へ広く情報提供できている。 ・本校の教育方針を踏まえ、育友会や同窓会との連携をより一層充実させ、生徒を学習面・生活面で支援するとともに会員一人一人が学び、参加・交流できるような活動が展開されている。	・本校の教育活動に係るリアルタイムな情報発信に努めるとともに、本校ホームページをより分かりやすく、魅力的なものにし、地域・保護者・中学生等へ広く情報提供していく。 ・会員の理解と協力を得て活発な活動を推進し、一層の活性化を図る。			
	ICT環境整備とICT活用教育の研究・推進	【教務】 ・iPadの使用は多いが、クラウドを使用した指導は少ない。 ・生徒のBYOD(BringYourOwnDevice個人端末を使用した学び)では、生徒のスキル、モラルの育成が課題である。 ・無線AP(AccessPoint接続箇所)を設置している教室数が少く校内LANに課題がある。	・GIGA(Global and Innovation Gateway for All 誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び)スクール構想で校内無線LANの改善、無線APの設置を進めている。 ・生徒が適切にICT(Information Communication Technology 情報通信技術)機器を使用し、学習や生徒会活動に取り組んでいる。 ・教員が生徒を指導するための十分なスキルを身につけている。	・外部講師を招き、校内職員向け研修を企画する。 ・先進校を視察し、事例の収集につとめる。 ・教職員用タブレットやICT支援員の活用をはかり、従来の指導にICTを加えていく。			
	国際バカロレア(IB)教育認定に向けた準備と研究	【教務】 ・昨年度末に候補校申請し、2020年4月13日に正式に候補校となった。今後2022年の認定校申請、2024年の授業開始に向けて調査研究とあわせてカリキュラム編成、施設整備、人材確保などが急務である。	・学校全体としてIB教育の理解が深まり、教職員それぞれが2024年に向けて協働する姿勢ができている。 ・施設整備や人材確保に向けて具体的な立案がなされて進行している。	・校内IB教育導入委員会を実施し、校内の準備を進める。 ・校内の研修会を実施し、教職員の理解を進める。 ・IBのWWS(Workshop)派遣及び先進校視察を実施し、教職員の専門知識の習得と還元を行う。 ・地域におけるセミナーを開催し、地域のIB教育への理解を得る。			

【定時制課程】

評価項目	具体的項目	年度当初			最終評価結果()月		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
定時制教育のさらなる充実	積極的な生徒指導による授業規律の確立と主体性の育成	・授業規律を守り、生徒会活動においてもその重要性を意識し活動している。講演等の内容を肯定的にとらえ、高い進路目標を目指して学校生活と就労を両立させている。 ・2年次生関西研修で夜間中学生との交流を通して学ぶことの意義について考えるとともに、企業見学等を通して生徒の進路意識が高まっている。 ・各行事を生徒会執行部が中心となって運営している。 ・日頃から生徒理解に努め、家庭訪問・職場訪問・個別面談・保護者懇談などを実施し迅速で適切な生徒指導に努めている。	・規律ある学習態度が維持されており、学習の意義や目的を多くの生徒が理解し、その結果、一人ひとりの希望進路の実現につながっている。 ・生徒の授業に対する理解度や満足度が高く、学習意欲や学力が向上している。 ・生徒が主体となって様々な活動や行事を行うことにより、社会で必要とされる力を身につけることができる。	・授業規律の重要性を認識させるとともに、常に個々に応じた授業改善に努め、生徒の理解度や満足度の高い授業を目指す。 ・関西研修、じげ産業文化探訪等の活動内容が学習意欲をさらに高めるよう、その地域でしか見られない見学先を精選し多面的な指導を行う。 ・生徒が中心となって生徒会活動を運営し、生徒の連携が強まる指導を行う。 ・学校から積極的に情報提供を行うと同時に、保護者が相談しやすい体制を整え、学校と家庭の信頼関係の構築に努める。			

【全日・定時制課程共通】

評価項目	具体的項目	年度当初			最終評価結果()月		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
業務改善の取り組み	・学校行事・研修会等の見直し ・長時間勤務者の解消	・目的が重複する行事やその準備等によって、勤務時間の長大化につながっている。 ・各部で休養日の設定を行ったが、徹底できていない部もあった。 ・完全下校時間の徹底が不十分であった。	・優先順位の低いものについて2つ以上の業務削減。 ・教職員の月当たりの時間外業務を月平均30時間以内。 ・休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。	・全日制は、部活動の休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底を働きかけている。 ・定時制は、学校行事や校務分掌のバランスは保っている。			